

ニ御回ニ相成候様御敷計可被下候

新地事務所

七年八月廿八日

長官

大隈

御用掛

藤村

野口

河鱒

品川上海領事ヨリ差越候新聞昨廿七日接到候
間供御一覽候

二十九

新地事務所

卷之四十一

「ニウヰム」ハ八月五日請取獲ハ武ヲ濟成リ
ピロオロ船社中輪ニ是迄所持シタル輪船マダラ
ス英ニ九州船ヲモ日本政府ニ買入タリ

鎮江來報

此地ヨリ一万人ノ兵ヲ台湾へ出スト言フ過日
ノ説ヲ聞ケリ然ルニ又タ別人ヨリ其詳述ヲ傳
聞シタルハ李鴻章ノ精兵是マテ保定府ニ居タ
ルニ万ノ兵称此地へ近日来リテ直ニ南方ニ行
ト港内碇泊ノ兵艦四隻及ヒ招商局ノ船アリテ
シアリ高名ナル洋子地方ノ軍將 *Pungelin* ハ現

鎮江來報

茲ニアリテ元来臺灣へ赴クベキ、命ヲ受ケタ
ル人ナルニ北京へ發行スト云フ説アリ
過日福州総督ヨリ金借ノ事ヲ述録ス今又聞得
タルニ此事直ニ行ナハレタリト返金ノ事ハ矢
張外国貿易上ノ入税ヲ以テス尚云ハ大小銃
買入ハ尚盛ニシテ未タ其事不止

太平賊長則々長毛賊ナリ其名ヲ知ラス千八百
六十四年ノ頃南京ヲ撃入シ後々ハ諸方へ未往
シテ竟ニ踪跡ヲ失セリ近頃廈門ノ隣邦ニ於テ
之ヲ捕縛シテ総督ノ公堂へ繫キ来ルニ更ニ驚

口ク色ナク且ツ頭ヲ垂レテ恭禮ヲ尽サス終ニ
五日前被レテ散々屠殺ニ罹ケタリ

八月十七日ノルトチヤイナリ日報

セミパラチングスハ清國ノ南方ニ当ル境界也
魯西亞政府ヨリ「シベリヤ」ニ在ルコスサツク之
陸軍ニ命シテ彼ノ地へ屬所ヲ撰ニコツサツク
人種五十余族ヲ分派スベシト人民モ亦タ懸念
ナキ土地ナリト信用シテ移住セント欲スルモ
ノ又多シ

蕃地事務局

乙第九十四号

一上海在領事ヨリ之封狀ニ

一長崎御支局ヨリ之油紙包大小二捆

右ハ昨夜入港之米國郵便船ニ乗者其筋ヨリ

届出候間則本関所屬廣田輝雄ニ為持差進候条

御請取之上證書御差越シ可有之此段申進候也

七年八月廿七日

横濱税関

横濱税関

蕃地事務局

蕃地事務局

御中

御用掛

七年八月廿八日

長官

大隈

御用掛

平井

野口

河鱈

品川領事ヨリ清國関涉ノ件別冊ノ通申越候間
外務大少丞ヨリ寫差出候間供高覽候也

品川領事ヨリ清國関涉ノ件別冊ノ通申越候間

蕃地事務局

割 印

第百三十五号

在上海品川領事ヨリ蕃地関係ノ儀ニ付別紙一

綴ノ通申越候間右寫為御心得差進申候也

七年八月廿八日 外 務 大 少 丞

蕃地事務局

御中

蕃地事務局


普地事孫居

近來清地各口ニオイト頻リニ兵器ヲ購辦致居
候模様ニ御坐候昨今ノ説ニテハマテリース一
名カツテリシク、ゴシニ十挺買取趣内九挺ハ有
所モ凡ソ相知居候此地製鐵所ニ於テモ前年取
入候マテリエールヲ摸シテ拵居候様子ト見請
ケ来候者有之其精巧ノ成否ハ未聞得候近頃御
國人製造所へ立寄候ハ不好模様ニ付強テ見分
不致候

水雷火ハ既ニ精巧致シ候由ニ御坐候一昨年日

普地事孫居

普地事務局

耳曼ヨリ取寄候水雷火ノ越列機仕掛ニシテ藥箱ノ形千銅ニシテ  如此差渡シ約二尺程有之總數二十个買入候ハ未タ字商ノ土蔵ニ有之候節見分仕候其節此品ヲ天津ハ差送り候由ヲ承リ候

前年上海迄郷シ一カアウエハ清兵二百人ノ屯集所有之是ニ教師トシテ被雇居候佛人キリシムルト申者迄頃屯所被廢候以來暇遣居候ヲ今般再度雇入レ来ル十六七日頃台湾ハ差遣候由此説ハ可信得事ニ御坐候

清國政府兵費ノ為此地米國商賈ヨリ一個年九分ノ利息ヲ約シ洋銀七百元ヲ借受候説有之候

台湾北方淡水キ一ロニハ石炭礦有之ハ年出大約三億〇三百九十二万高島炭礦三億万ノ産出ニ必適仕候是ハ海軍ノ緊要ナルモノニ付申上置候然ルニ左件ノ如キ新聞ノ説有之候

我輩清國官員ノ内信用スベキ人ニ因リ聞得タリ淡水地方ノキ一ロニニ在ル石炭礦ヲ政府一手ノ用ニ供シ賣買ヲ禁スト言フ又日本ニ於テ

普地事務局

モ同様ニ高島炭礦ヲ閉シ弘賣ヲ不許ト言フ若
此説實ニ當ラバ兩國間ノ争端目前ニアルベシ
上件ハ只新聞ノ説ニ御坐候ハ共真ニ清國ノ間
ト争端相起候時ハ清地別ニ炭礦ナク但シ天津
南京ノ地
方ニ有之候ハ共未ク清人然ルトキハ必ス新聞
ノ手下ニ有テ現出セズ
ノ如クキーロンノ石炭礦ハ外商ハ賣出ヲ禁候
哉難計推察被致候其他清地ハ運入ノ石炭別紙
ノ通り各口輸入表ヨリ調出候モノニ付御勘査
相願候

七年八月三日ノ新聞

七十四年七月十五日於太古日兵

現今ノ景况ヲ記スル左ノ如シ

白地ニ紅ノ圓月旗章ヲ翻カヘシタル船舶折々
来往スルヲ見ルカ又一二ノ洋服ヲ著シタル日
本人逍遙スルトヲ見ルノ外恰モ島中日兵ナキ
ガ如クシテ閑靜ヲ極メタリ清國ト日本間ノ事
情ハ碌々トシテ前月ニ均シク更ラニ事運ノ進
ムヲ見ズ

ルノミニニシテ島中ノ一小地ヲモ外人ハ犯サ
セジトスル主意ナルベシ然レドモ傍ラニハ万
一和信ヲ存有スル事能ハザル恐レアルヲ以テ
其預備ヲ為スハ疑ヒナシ
ペスカールトル島中ニ如何ナル風雨ト雖トモ停
泊シテ安全ナル港口アリ
シケル氏顧問ノ為メ清使台湾府ニアリテ各所
ノ砲臺ヲ見分シ圖ヲ畫ガクニ少シモ休憩ヲ得
ズ

先年清國ノ海関ニ勤メタルフロウンナルモノ
モアンヒン地名ニ上陸シタリト言フ此人ハ元ト
天津ニ在リシ時支那人ハ洋式ノ練兵法ヲ傳習
シタリ茲ヲ以テ見レバ此人モ亦台湾ノ事務ニ
関涉スルハ推テ知ルベキナリ一説ニ台湾ヨリ
大地ハ水底線ヲ設ケントスル説アリ若シ此事
真ニ被行ナバ日本人ノ幽カ勇ニ進ミタルヲ
發覺スベシ
琅瑯ニ在ル日本人最モ静謐ヲ極メ南方ノ陳營
ハ元本營ナリシ處此邊最モ清潔ニシテ潮水常

ニ満チ眺望真ニ画クガゴトシ又兵隊悉ク木作
ノ小屋ニ樂住ス海岸ヨリ通路ヲ設ケ兩邊ニ并
木ヲ植付タリ見ルニ永住シテ更テニ差支ノ事
ナガルベシ素ヨリ今ハ兵士ノ再渡モナク新夕
ニ營ヲ築クナク亦外社ヲ攻撃スルノ企ナシ近
隣ニ在ル酋長ハ折々軍將ヲ拜訪シ友誼ヲ表ス
南方ノ全島ヲ横延シタル一ノ街道アルハ現今
來往安全ナリ都督其他ノ人々護送ノ兵ヲ卒ヒ
ズシテ一日ニ來往スル事屢々ナリ
台湾道臺ハ公ル日曜日ニ當リテ此地ヲ發シ全

夜パスカートル島へ著シ夫ヨリ他ノ火輪船ニ
乗替へ淡水キーロン及ビサウヲベリニ到レリ
此發行ノ原因ハ前ニ日兵台地ノ北岸ニ上陸セ
リトイフヲ聞及ビシユハナルヨシ若シ其事果
シテ然ラハ足下彼ノ地ヨリ直ニ音信ヲ得ベ
シ

台臺消息

日本人ヨリ琅璠ヲ引渡スニ附テハ軍費トシテ
 大約百万弗ヨリ百五十万弗ノ高ヲ拂ヒナバ退
 クベシト言出セシハ相違ナキ事ナリ其時清國
 副使ハ正使ハ其請求ノ旨ヲ告訴スベシト答々
 ル由然リトイヘドモ天津ノ近國ヨリ既ニ出兵
 ノ命ヲ受ケタルモノ四万人ソノ他職上ニ盡ク
 シガタキ程軍備整ナフタレバ此ノ求メニ承諾
 ノ應音ヲ為ス事ハアル間敷コトナルベシ依之

善地事務局

漸々日月ヲ過ストキハ自然軍備彌々整フガ故
ナリト

迹頃同所ヨリハ更ラニ迹聞ヲ得ス併シナガラ
風港ニオイテハ最モ不幸ナル凶事在リト聞オ
ヨビヌ其風港ハ琅璫ノ北方ニ當リテ一小村落
ナリ是レ住民日兵ヲ頼ミ生蕃ノ暴行ヲ防ガシ
トセリ

此村落ノ者一名日人ニ殺害セラレタル由来ヲ
聞クニ此日本人色欲ノ情ヲ起シタレバ其我カ
妻ヲ防カントスルヨリ忽チ殺害セラレタリ其

復讐ノ策ニ盡キタルヨリ皆家々ノ門戸ヲ閉チ
日兵ニ物貨ヲ賣ラザルニ決シタリ依之見ルベ
シ兩國人ノ勢ヒ既ニ此不和ニ至レハ重大ノ事
件ヲ引起スベシ

副使潘大人モ一昨夜フロウシ氏ト共ニ本地へ
著シ又夕昨日午后南方へ行カン為メ〔パトトウ〕
ハ出發シタリ

兵士清兵ヲ云フ二千人ハ近日太古へ屯集スルノ説
アリ此地ハ一方ハ海ニ涉リ陸ハ沼池小山ノ數
峰ヲ列シタレバ如此兵數ヲ置クニ適宜ノ地所

善地事務局

ナシ若シ此地へ来ルアアラバ土地ノモノノミ
ナラズ外人居住ノモノニモ大ニ難汝ヲ醸ス
ベシ
方今日清西國間ニ起ル交戦ハ日兵ノ敗走ヲ志
望スル者多シ

於太古七月二十二日

八月十一日追加

商招局火輪アーデン船ハ清國政府ノ駁貨船ニ
用ユルタメ今其船機ヲ為ス
火輪ハイナン船ハ天津ヨリ入船セリ市街ノ内
説ニ来ル八日或ハ十五日ノ兩日ニ聚民外國人
ヲ攻撃スルノ愚説ヲ傳フ

鎮江新聞

鎮江來船船ヨリ傳告スルニ台湾地方へ出兵ノ

為メ現今頻リニ其用意ヲナセリ港内碇泊ノ清
國兵艦ハ今三艘アリト
一昨今土下ノ新聞ニハ清國政府数百万ノ金ヲ
乞貸スルト言フアリ我輩之レヲ搜ルニ此地
ニ於テハ更ラニ其事ナシ只福州總督ハ金借ノ事
ヲ彼ノ地ニ於テ議シタレドモ其事ノ成否如何
ヲ知ラズト

八月十一日西字日報

揚州述國ノ^レシシガプート言フ處マデ一万ノ清

兵到著シタリ從是鎮江ハ到リ現今碇泊ノ兵艦
ニ乘セ台湾ニ赴クト言フ

福州厦門ノ陸上殆^ニド一百三十里^{イル}アリ此處ハ
電線ヲ傳フ事ヲ清官傳信局ハ允許シタリ

寧波來報

過日此地ハ浙江撫臺到著シテ鎮海ノ砲臺ヲ見
介シ之ニ充分修復ヲ加ヘン事ノ意見ヲ述ベタ
リ然レドモ未ダ其大工業ニ取掛ラザルハ舊臺
ヲ掃除シ且ツ要件ノ全備セザル故ナルベシ我

蕃地事務局

前日ノ新聞中ニ撫臺ノ奏聞アリ之ニ依テ見レ
ハ前次彼レ水陸調練ノ舊式ヲ見分シタルニ兵
士好ク其事ヲ熟練シタリト言フ我輩之ヲ見ル
ニ舊式洋式相共ニ夸バシムルト何ノ注意ナル
ヤ甚ク奇ナリトスル處ナリ

一清國政府ノ為メ一昨日本地ニ於テ
トロンク砲十門 但シ百二十「ホウ」ニシテ圓
彈破烈丸共ニ二百ヶ買入レタ
リ其價十萬元或ハ十萬兩ト言フニ説アリ

七年八月廿八日

蕃地事務局

輔

河鱈 野口

長官 (大隈)

外務卿

品川領事ハ御廻答案

八月十三日附第二十六号書翰接到新聞落
掌来示ノ廉々致承知候此段及回答候也

寺島 外務卿

大隈蕃地事務局長官

蕃地事務局

呂川上海領事殿

神代延長

第二十六号

野口

頃日本地ヨリ長崎へ相傳候水底線断絶中ニ付
 朕トハ難申上候へ共太平海郵船本日到岸ノ日
 ニ相當候ニ付大久保内務卿殿ニ多分今夕明朝
 ノ内御著船ト推察仕候
 一昨日出船ノゴールデンエーシハ相托差立候
 公函中柳原公使殿各國公使同席ノ應接御坐
 候由同知ヨリノ使人ヲ以テ申越候ニ付猶詳
 委聞紀候為神代延長ヲ同知公署迄差遣シ候

處昨日申上候外別ニ委敷儀不申來候趣ニ御
坐候

一只今北京公函接到仕候ニ付不取敢差立申候
本便ハ太平海郵船ニ無之英國輪船長崎迄ノ
便ニ北京來翰共相托申候
別添新聞抄訊ハ本日迄ノ分ニ御坐候間入御
鑒候也

明治七年八月十三日

上海領事 呂川忠道

寺島外務卿殿

大隈蕃地事務長官殿

新嘉坡

八月十二日夜行新聞

下ニ記載セシ船
号ハ過日差上置
候清國軍艦并
ニ商招局船表
ニ有之候

聞得タルニ商招局ハ過日清兵ヲ運送スルノ公
務ヲ奉命シタル賞トシテ海軍旗章ノ長旗ヲ翻
シタリ又々同局船アーデンハ出船ノ前ヨリ同
様ノ旗ヲ引キリ¹エ²ン船モ又々今日同旗ヲ用
ユルノ式ヲナシタリ
火輪アカニター船并ニニウヨロク船ヲ日本政
府購了シタル説アルノ外又々¹キウ²シウ³船ヲ買
入タル説アリ但シ此輪船ヲ購了スルヤ只其日

香港地事務局

臺北軍務局

兵ヲ臺灣へ送ラシムル為メナリ故ニ上海ノ説ニ於テ見レハ弥兩國争端ヲ開クナルベシト茲ニ再告シテ前日ノ紛ヲ解カントスル一事アリ則チ清國政府金借ノ事ナリ其説紛々トシテ或ハ四百萬テール或ハ七百萬テールト言フ其返辦ノ期八十個年ニシテ金利一年八分ト定メ税関ノ年入税ヲ以テ辨還スト此主意ハ福州總督ノ思向ニ出テ、全ク軍費ニ備ナフル為メナリ此年入ノ税ト言フハ素ヨリ總督管轄ノ各所ヲ言フ又一説ニ曰ク此談ヲ請ケン外商ノ言

ラク証書ニ皇帝政府ノ蓋印ヲ祈望スト依之見レハ今暫ラクハ其貸借ノ事中絶スベシ

八月十三日臺灣事件八月一日厦門來報

余カ信用スヘキ友人ヨリ聞得タルハ軍費ヲ請取ラサレハ日兵迎モ基地ヲ退カザルベシト又曰ク清國ニ於テハ之ヲ嘲笑シテ六月一日附ノ最末書函ヲ日兵ニ送リタリト其内ニ言ラク今ヨリ一百日内ニ臺地ヲ退クベシト日兵又々琅璫ヨリ東岸マデノ間ヲ横截シテ道路ヲ新築シタリ故ニ西岸ハ新道ヨリ南方ヲ日兵ノ所得ト

臺北軍務局

臺灣新報

セリ茲ヲ以テ見レハ争端ヲ開クハ目ノ辺ニシ
テ清國モ亦々非常ノ用意ヲ充分ニセリ清官ハ
洋銀八十萬元ヲ出シテ臺灣府ヨリ厦門マテ水
底ニ設ケル電線ヲ注文スト此金高ハ素ヨリ難
信事ナリ最モ現今清兵ヲ臺地へ集メ島内ノ諸
縣ハ嚴重ニ護兵ヲ置ケリ

方今臺灣府ノミノ兵員一万ニ下ラス加フルニ
李鴻章ノ手下ニ在リシ兵士大約七八千人ハ迄
頃此地ニ来ルト廣東并ニ(チヤンチウフ)ヨリモ
又々五六千宛ノ兵ヲ進ムト此内チヤンチヨ一

府ノ兵ハ迄日大古ニ上陸ストアリ大砲ハ素ヨ
リ諸方ヨリ買入レ厦門ハ嚴重ニ砲臺ヲ築クト
言々

日本ノ運送船ハ今港内ニアリテ機械ノ修復ヲ
為ス日本官吏ハ屢々造船場ニ来レリ厦門ノ砲
臺ハ迎モ嚴重ニ守リ難シ若シ戦争ニ至ラハ戰
フニ便利ナル地ナレハナリ日本ハ素ヨリ過失
アルハ被打ハ至當ナリ記者意見ヲ述ハタリ
傳説ニ曰ク日本艦臺灣ノ東岸近海測量ノ片竟
ニ破船シタリト其乘艦ノ者共殘トコロナク其

臺灣新報

難ニ逢フタルヤ否ハ未タ知得サル処ナリ

藩地事務局

無号

七年八月廿八日

内山

長官 大隈

御用掛

轅輔

野口

平井

河野

渡部與一郎へ御答案

本月三日附天三号書面接到致披見候公使
一同去月廿七日北京安抵ノ趣致遥賀候公
使天津土人要襲ノ浮説其他廉々未示具弌
致候總理衙門談判如何候哉疾速弌知致度

藩地事務局